

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677400147		
法人名	医療法人社団春陽会		
事業所名	グループホーム春光苑		
所在地	鹿児島県肝属郡肝付町新富536-2		
自己評価作成日	平成25年2月27日	評価結果市町村受理日	平成25年8月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	県ホームページより
----------	---------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成25年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・行事・勉強会に力を入れている ・感染予防に徹底している ・利用者のケアに対して向上心がかる ・職員のチームワークがあり、一人ひとりが一生懸命である

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・運営推進会議で入居者の状況がよく分かる。又、地域代表の出席があり、苑だより、行事案内を配布し、行事等の手伝いの申し出があり、協力してもらっている。集落の総会や奉仕作業への参加をし地域交流ができています。 ・利用者の状況に合わせた食事形態の提供と行事食を大事にしている。 ・施設内外の研修に参加し、ケアの向上に努め、利用者とのコミュニケーションがスムーズである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿ったケアができる様に努力をしている。 毎朝、出勤者で理念を唱和し、利用者の立場にたったケアができる様に心がけている	毎朝、理念を唱和し、毎月目標を全員で話し合いケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事はあまりないが、年に2回の地域の奉仕作業に参加し、交流できるように努めている。	自治会の行事が少なくなり、苑から地域交流会の案内をし、小運動会、花見、クリスマス会、もちつきなど、家族、地域の方、ボランティアの方の協力、参加がある。 職員も年2回の奉仕作業に出席している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政と連携を図り、養成講座等で行い、地域の方々にも理解してもらえる様に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、管理者とスタッフが参加し、出た意見等は改善を行いサービスの向上に努めている。	行政、地域、家族の出席が得られ、2ヶ月毎に開催されている。行事予定や報告、入居者の近況報告、施設サービスへの要望、助言について話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が主に行政の方と連携を図っている。	行政、包括支援センターとの情報交換や相談など連携が取れている。町主催の研修会（徘徊模擬訓練）への参加、中学生受け入れ時、認知症の講話も行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会等行い、周知してはいるが、業務中で言葉の拘束が聞かれる事がある。	委員会があり、事例をあげて検討し、振り返りの会を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修会を参加し、虐待のないケアを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、職員同志で学び合い、必要な方は活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、重要事項の内容・リスク等の説明を行なっている。 家族からの質問等も納得して頂けるように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	委員会を設けて、相談・クレームなど対応し、対策を立てて実施している。	年2回家族会(花見、クリスマス会)の開催時、面接時、メールで意見や要望を伺い、アンケートを取り、運営改善に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や日々の業務の中で意見を聞くようにしている。 又、職員同志の意見交換の場を設け、業務改善等行っている。	管理者よりアンケートがあり、何でも言える関係にある。ミーティングや日々の業務の中で業務改善が行なわれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に応じて、手当・給与の見直しや勤務状況に応じて正職への登用を行い、意欲を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者から代表者への報告で一人ひとりを把握できるように努めている。 毎月、勉強会を行ったり、外部の研修にも参加できる機会を設けスキルアップをはかれるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修会を通して、交流する機会を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	把握する為にスタッフ全員で耳を傾け、カンファレンス等で情報も共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に苑での様子等を報告した際、家族からの話を聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、家族との本人の希望を聞き、ケアプランを作成しサービスを行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のコミュニケーションの中で昔の行事や習慣、料理などを学んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者担当者が中心に家族との連携を蜜にし、支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人差はあるが、いつでも面会できるようにしている。家族の協力も得て外出・外泊の機会を増やしている。 手紙のやりとりや電話等も出来る様にサポートしている。	1年～8年の入居者様がある。家族の協力を得て、外泊、外出の機会をふやしたり、個別には手紙のやりとり、電話等のサポートなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールなどで、利用者が孤立しないように席替えをこまめに行なっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も関わりを必要とする利用者やご家族に対してお見舞いに行ったりしている。地域であった際も、挨拶や会話がなされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、利用者の希望を聞き取り取り組んでいる。	一人ひとりの言葉や表情、行動などから、その人の思い、希望をくみ取り、ケアに努めている。日常生活ケアでの気づきは介護記録に記入し、申し送りを行なっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	委員会を中心に、家族・本人より状態を聞き取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ全員が把握できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状態に合わせた介護計画を作成し、家族の理解を得ている。	カンファレンスは必要に応じて行い、問題があればその都度行なっている。モニタリングは6ヶ月毎に行い、本人、家族には、日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き、反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いた事など記録に残し申し送りなど、スタッフ全員に行き渡るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度カンファレンス等で取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	努力はしているが、地域資源が全て活用できているわけではない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診は、1ヶ月に1回以上、定期検査は3回月毎に実施し、状態に合わせて他科受診なども適切に行なえている。	本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。専門医への受診は家族と同行する。歯科医は往診、皮膚科は法人の病院で協力医療機関の月1回の往診、必要に応じて往診も行なってもらい連携が図れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	疑問に思ふことも相談したり、予防や改善方法なども教えてもらえるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員の経過を尋ねたり、入院中は状態を見に行ったりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	毎日、情報交換を行い、その情報に合わせた介護を提供している。	早期から家族と話し合いの機会を作り、事業所でできること、力量を十分説明し対応している。看取り後、カンファレンスを行い次のケアへステップアップしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルはあり勉強会・研修に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	委員会を設け、係が中心になり定期的に消防訓練は行なっている。必要物品は、準備されているが、地震・災害の訓練は出来ていない。	消防署立会いのもと、年2回の避難訓練、消火器を使つての消化訓練が実施され、2ヶ月毎の自主訓練も行なわれ必要物品も準備されている。	災害時の具体的な避難対策を検討し、あらゆる災害を想定しての自主訓練を希望します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを守り、個人の状態・合わせて行なっている。	接遇の研修会を行っている。人前での介護、言葉かけや対応に配慮し、さりげないケアに努めている。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように、働きかけている。			
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活ではあるが、個々のペースを大切にし、生活できるように支援している。			
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は、その方に合ったおしゃれをしている。			
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みに合わせている。又、盛り付けなども工夫している。食事の準備・片付けは利用者の状態に合わせて行なってもらっている。	入居者と一緒にスーパーに買い物に出かける。野菜の下ごしらえの手伝いをしてもらう。行事食（おせち、節分、ひなまつり、クリスマス会）入居者の状態に合わせて食事形態を変えている。ドライブに出かけ、外食を楽しんでいる。		
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲がない方に関しては、食事形態を考慮し提供している。 食事を拒否される方に関しても食事形態の工夫や声かけなど行い、摂取できるように支援している。			
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方には声かけをし、介助が必要な方にはスタッフが介助している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の状態に合わせて、オムツ・リハビリパンツなどで対応している。	自尊心に配慮し、その人にあった排泄介助が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬になるべし頼らずに、繊維の多い食事や飲料水なども提供している。 それでも排便困難な方には、主治医に相談し内服処方をしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体的な機能低下で、利用者のADLの状態が変わり、曜日・時間帯は決められているが、浴室では個々に沿った支援をしている。	週3回の入浴を予定している。2人で入浴されたり、声かけやタイミング、入浴剤の使用などで楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠時間に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から届いた薬を自分達でチェックし把握するようにしているが、全員分は出来ていない。 特に、副作用がある薬は、薬剤師より説明があり状態観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク、調理、行事に合わせたお菓子作りなど一緒に行なっている。 役割は数名であるが、配膳や嚥下体操などしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクの時間を利用し、希望者のみ散歩・買い物・ドライブなど行なっている。 年間行事にドライブや初詣など外出機会を取り入れ、その都度、家族と一緒に参加できるようにしている。	午後2時～3時、外気浴や散歩をしている。法人を1周りすると1kmの散歩になる。ドライブは2ヶ月毎に食事を持って出かけている。初詣やみかん狩りにも出かけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知の悪化に伴い個人での管理が難しくつており、物盗られ妄想があり、利用者とのトラブルを防ぐため家族とも相談し所持させていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時にかけたり、家族からの電話も取り次会話が出来ている。 一部ではあるが、手紙を書かれる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは、1日5回温度チェックをし調整している。季節がわかるような壁画を毎月作成、季節に応じた草花を飾っている。	天井が高く開放感があり、壁色も白く明るい、写真や飾りつけが得意な職員がいて、季節感があり、癒される。夏には緑のカーテンを作ったりして工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル以外にソファや玄関先に椅子を置いたり、危険がないように空間作りが出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた物を持ってきてもらうようにしている。	畳とフローリングの部屋があり、ベット、クーラー、整理タンス、TVは備え付けである。各部屋には、家族の写真や小物がありそれぞれ本人が居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室など利用者がわかるように表示し工夫している。		